

武将の晩年から健康を考える

著者	内藤 みほ
雑誌名	新潟日報 上越かわらばん
巻	1021
ページ	2-2
発行年	2014-06-01
URL	http://hdl.handle.net/10631/1164

看護大通信

117

いよいよ来月高田開府とも75万石ともいう石
400年祭が行われま 高を押し大出世を遂げ
す。高田城初代城主が、ました。しかし、栄華は
徳川家康・八男松平忠輝公 長く続かずその後も波乱
です。築城工事には、に満ちた人生でした。

仙台伊達家をほ

じめ、盛岡南部

家、会津若松

蒲生家、米沢に

移封となった

県立看護大学 基礎看護学 助手

内藤 みほ

みそをつまみに酒を
楽しむ無類の酒好き
多い現状です。

武将の晩年から健康を考える

今日の日本、そして上

越の礎を築いた武将たち
に思いをはせながら、今

上杉家など、名だたる大 晩年は信州諏訪の大自然
名将が関わった全国に誇 に囲まれ、俳句や茶道な
れるお城です。忠輝公は、 どをたしなみ、心穏やか
その父家康公に愛され に過ごせたのでしょう
ず、不遇な幼少時代を送 か。当時では珍しい92歳
っていたようですが、 という天寿を全うしてい

わが上越が誇る義の武

ストレスをかかなり高め

第1日曜掲載

戦国時代には、戦で華 将上杉謙信公もまた、脳
々しく散ることが武士の 卒中で倒れています。毘
誉れとされていたようで 沙門天の化身として生涯
すが、病気で亡くなる武 独身を貫き、肉を食さず
将も少なくはありません に粗食を心掛けるなど、
でした。諸説ありますが、 厳しい制約を自分に課し
忠輝公のお舅(しゅうと) ていたという話は有名で
伊達政宗公は腹膜炎、自 す。そして、塩や梅干し、
腹膜炎、自 す。そして、塩や梅干し、
多しむ無類の酒好き 多い現状です。

一度ご自身の生活を振り
返り、豊かになった現代
だからこそ健康的な生活
が送れるよう、考えて
みるのはいかがでしょうか。